

## —若手技術者のコーナー—

## 国土交通省職員としての抱負

## 1. はじめに

私は平成27年に国土交通省九州地方整備局に入省して、今年で入省6年目を迎えた。平成27年4月から平成29年3月までの2年間は大分川ダム工事事務所工事課に配属され、建設ダム（ロックフィルダム）の工事発注や工事監督などを担当した。平成29年4月から平成30年3月までの1年間は、熊本河川国道事務所調査第二課に配属され、道路の概略設計・予備設計、アセスなどの業務を担当した。平成30年4月から令和2年3月までの2年間は、企画部技術管理課基準第一係に配属され主に工事の積算基準の策定などを担当した。今年度からは、熊本河川国道事務所阿蘇国道維持出張所に配属され、国道57号の管理や滝室坂トンネルなどの工事監督を担当する。

本文では、企画部技術管理課の業務内容やそれら業務を経験して感じたことや、今後の抱負についてお伝えしたい。

## 2. 技術管理課の紹介と役割

技術管理課は7係1班30名ほどの職員が在籍しており、工事・業務の入札契約に関する取り決めや積算基準の策定、検査・監督の基準策定などを担当している。また、持続可能な建設産業の構築も大事な役割のひとつである。

建設産業は、地域のインフラの整備やメンテナンス等の担い手であると同時に、地域経済・雇用を支え、災害時には最前線で地域社会の安全・安心の確保を担う地域の守り手として、国民生活や社会経済を支える大きな役割を担っている。

そんな建設産業は近年、急激な建設投資の減少や競争の激化等により、建設企業の経営を取り巻く環境の悪化と、現場の技能労働者の高齢化や減少、若手入職者の減少といった課題に直面している。

国土交通省はそのような課題解決のため様々な施



（一社）日本建設業連合会との意見交換の様子

策を行っているところである。九州地方整備局としても、定期的に建設業界との意見交換会を設け業界の意見を施策に反映できるよう事務的調整等も行っている。その主務を行っているのが技術管理課でありまさに建設産業との架け橋を担っている。

## 3. おわりに

技術管理課での2年間は大変貴重な経験となった。建設産業が担っている役割や、現在おかれている状況・課題、それらを解決するために国土交通省としての施策づくりを最前線で経験ができたからだ。

私は、今年度からは現場（出張所）で仕事をしていくが現在進められている施策が現場ではどのように反映されているか、又はよりよい現場のためにはもっとこうしたらよいのではないかという視点を持って仕事をしていきたい。



技術管理課懇親会後の写真（筆者は最下段一番右）

国土交通省 九州地方整備局 熊本河川国道事務所  
猿渡 敏明